

地域包括ケアシステムシンポジウム — 支え合い、いきいきと暮らせるまち堺 —



活動の目的

- 1 | 住み慣れた地域で暮らし続けられるように地域包括ケアシステムについて理解を深める
- 2 | 市民あるいは保健福祉関係者としてこれからどういう取組や行動が必要なのかを考える

連携にいたる経緯

毎年企画し実施している「医療と介護の連携」を考える専門職の連携シンポジウムの一環として、2017年度「地域包括ケアシステム」をテーマに実施。堺市地域包括ケア推進課、堺市医師会副会長と担当理事、人間健康学部黒田教授の協議により企画を固めて開催した。

活動内容

2018年2月5日に実施。市広報、チラシ、ポスターなどで参加を呼びかけた結果、当日は約300名の市民に加え、堺市の民生委員、保健医療福祉従事者等の関係者も参加。

第1部の基調講演では、講師の厚生労働省老健局総務課の石井義恭課長補佐に、地域包括ケアシステムとは何か、なぜそれが必要になってきているのかを解説してもらった。

第2部のパネルディスカッションでは、堺市医師会の岡原和弘副会長、さかい地域包括・在宅介護支援センター協議会の西尾正敏代表幹事、堺市校区福祉委員会連合協議会の南埜健二会長、堺市健康福祉局長寿社会部の今津弘子地域包括ケア推進課長に、「地域で見守る～それぞれの立場から～」と題してお話しをいただいた。

全体の進行、パネルディスカッションの司会を関西大学人間健康学部の黒田研二教授が担当した。地域包括ケアシステムを実現させていくには、保健、医療、介護、福祉、市民、行政のそれぞれの立場からの参加と協働が要件となる。基調講演とパネルディスカッションを通じて、その具体的内容を市民とともに考える会となった。

活動の成果

- 1 | 会場としてサンスクエア堺ホールを確保し、多くの堺市民の参加を得て啓発事業を実施
- 2 | 地域包括ケアは保健医療、介護福祉、市民、行政からの参加が不可欠であることを理解
- 3 | 医療と介護の上手な利用と地域で進めている校区福祉委員会の活動の推進を呼びかけた

今後の課題・目標

- 1 | 地域包括ケアシステムの構築はまだ発展途上。市民啓発事業や活動報告の継続が必要
- 2 | 必要となる地域の分野横断的ネットワーク形成を大学が協力をして推進すること
- 3 | 堺市全域だけでなく、各区、日常生活圏域、小学校区といった重層的な取組を視野に

● 教員紹介



人間健康学部 教授 黒田 研二(くろだ けんじ)

黒田教授は、本学で「高齢者福祉論」「医療福祉論」「予防医学」等の講義を担当。堺市社会福祉審議会副会長、高齢者福祉専門分科会会長を務め、そこでは関係者間での審議を深めつつ、堺市の高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画の策定に関与している。

DATA

● 主な連携先・メンバー

堺市、堺市医師会、関西大学人間健康学部の三者の共同開催

● 活動地域

堺市

● 活動資金

堺市、関西大学、堺市医師会の予算をもとに必要な経費を分担

